ロボット補助下腹腔鏡下前立腺全摘出術を受けられる患者様へ

様　　看護師

病棟名　10A　　病名　前立腺癌

経過	入院時	手術前日	手術当日手術前	手術当日手術後	手術翌日	術後2日目	術後3日目	術後4日目	術後5日目～	術後7～9日目	術後10～13日目（退院
日時	入院日（　/　）	（　/　）	（　/　）	（　/　）	（　/　）	（　/　）	（　/　）	（　/　）			
目標	・術前オリエンテーション、面談内容が理解でき、不安が表出・緩和できる。 ・手術に身体的、精神的に安定した状態で臨むことができる。			・循環動態が安定している。 ・呼吸状態が安定している。 ・苦痛があることを医療者に伝えることができる。　・苦痛が最小限にコントロールされる。		・看護師と一緒に病棟内を歩行できる。 ・放屁がある。	・一人で病棟内を歩行できる。 ・食事が半分以上とれる。 ・創痛が1日1～2回の鎮痛剤でコントロールできる。 ・38度以上の発熱がない		・尿漏れに対する対処方法が理解でき、準備ができる。	・留置カテーテル抜去後、自尿がある。 ・尿漏れに対する対処ができる。	・退院後の生活の注意点がわかる。
検査		朝6時ごろに採血があります。	手術入室予定時間（　：　頃）	体温、脈拍、血圧を定期的に測定します	朝6時頃に採血があります レントゲンの撮影があります			採血があります。			病理検査の結果が出ていれば主治医から説明します
治療			手術が午後の場合は術前から点滴を始めます。	術後、点滴を続けます	1日中点滴を続けます	夜で点滴は終わります。				7～8日目に膀胱および尿道の造影検査があります	退院
説明・観察	看護師がこれまでかかった病気、飲んでいる薬などについて伺います。氏名確認のためのリストバンドをつけさせていただきます。 （　）時頃に主治医より手術の説明、麻酔科医より麻酔の説明をいたします。同意書を主治医・麻酔科医よりお渡ししますので、必要事項をご記入の上、看護師にお渡し下さい。 ※主治医面談はご家族の方と一緒に聞いていただきます。	手術に備えて、和式の寝衣、T字帯、腹帯、バスタオルを各1組、吸いのみまたはストローを用意しておいてください 朝食以降は水・お茶のみ飲水可能です	時計、指輪、眼鏡、ｺﾝﾀｸﾄﾚﾝｽﾞは予めはずしておいて下さい。義歯はずす必要はありませんが、看護師までお知らせください。 （　）時以降、飲水不可となります。朝は下記の内服薬を服用して下さい。	傷の状態、尿の状態、発熱の有無を適宜観察します。痛み止めの注射をしていますが、それでも傷の痛みがある場合はお伝えください。	まず看護師と一緒に座ったり、歩いたりしてふらつきがないか確認します。何もなければ以後歩行可能です。	食事と薬を再開します ・体を動かすことは手術後の回復を促します。　・尿の袋は自分の下腹部より下になるようにしてください。 ・ベッドで休むときは管が体の下敷きにならないようにしてください。 ・点滴や管を引っ張らないよう気をつけてください。			尿漏れが起こることがあります。対策として骨盤底筋運動の説明があります。尿取りパットを準備してください。	尿道の管を抜いて初めての尿は、コップにとって看護師にお見せください。尿が出ずにお腹が張ってきた場合はすぐにお知らせください。 リンパ浮腫指導・退院指導を行いま	次回外来受診日を説明します
処置		毛剃りと臍の掃除を行ないます。 夜18時頃に下剤を飲んでいただきます。	朝7時頃に浣腸を行います	尿道とお腹に管が入っています。 酸素吸入を行ないます。状態に応じて痛み止めの注射が入っています。	酸素吸入は終了します 毎日傷の状態をみます	傷のガーゼ交換をします	お腹の管のからの排液量が少なくなったら管は抜きます →			尿道の状態を造影検査で確認した後、尿の管を抜きます。傷の状態を確認した後、抜糸します。 傷が治癒すればガーゼははずします	
入浴	シャワー浴可 →	→	入浴禁止		体拭き →		お腹の管を抜いたらシャワーに入ることができます →		→	シャワー浴	
活動	歩行可	歩行可	歩行可	ベッド上安静	歩行可 →	→	→	→	→	→	→
食事	常食	朝　腸検査食7分粥 昼　5分粥 夕　3分粥 毎食事時にメイン1本ずつ　以後絶食	禁飲食	禁食	昼から飲水開始 夕　メイン1本	朝 5分粥食＋メイン1本 昼 7分粥食＋メイン1本 夕 全粥食＋メイン1本	常食 →	→	→	→	→

注1　病名等は現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくに従って変わり得るものです。
注2　入院期間については、現時点で予想されるものです。

大阪赤十字病院　泌尿器科　　2017.8　改訂